おひざのうえで

（副園長の子育ておうえん通信）（２０２１年６月）

せんりひじり幼稚園
副園長　安達かえで

「　信じて見守る　　」

先日は、保育参観にご参加くださりありがとうございました。
コロナ禍の中で今まで通りにはいかないので、今回は新たな形の参観を試みましたがいかがでしたか？
年少組は、2部に分けて親子でふれあい遊びを楽しんでいただきました。
年中・長は3日に分けて参観していただきました。

年中は一日の生活のコーナー活動と全体活動の様子を、年長は草木染プロジェクトの話し合いの様子を見ていただきました。年少の参観では、子どもと一緒に手遊びをする保護者の方の笑顔が素敵で、見ている方も笑みがこぼれてきました。年中の参観は、日ごろの園生活の流れを見ていただき、コーナー活動では一緒に遊んでくださってありがとうございました。

年長組の参観では、草木染の話し合いを見ていただきましたが、1学期ですので、クラスで染める物を5つぐらいに絞る話し合いや、染めるグループの名前を決めるなど、比較的簡単な話し合いでした。自分たちのやりたいことを考え、意見や思いの違いを話し合いで詰めていき、合意を得ながら進む経験を重ねていきます。2学期の運動会やお店屋さんでは、驚くような深い話し合いができるようになりますが、1学期はまだうまくいきません。まだ、勢いに負けて少数の意見が通ってしまったり、理由がないままなんとなく決まったりすることもあります。ところが経験を積み上げていくと、ただ自分の意見を言うだけでなく、どうやったら友達が同意してくれるか知恵を絞り、言葉を選びます。友達の声に耳を傾けるようにもなり、説得できる資料を用意する子も出てきます。

今はまだ話し合いが成立しないときもありますが、何事もうまくいかないところから始まります。うまくいかないことがあるから、どうしたらうまくいくかを考えていきます。難しい時やくじけそうなときは、担任たちが何度も気持ちを聞いてつないでいきます。これから途方もないほどのやり取りを繰り返し、間違いなく話し合いが上手くなっていきます。また、相手の気持ちを理解しようとするようになっていきます。

参観の話し合いを見て、「理屈が通らないのに、そのやりとりが面白くて・・・」とくすくす笑って温かく観て下さる保護者の方や、「それなりに、相手のことを考えて、進めているからすごいなと思いました。」という感想もありました。「上の子の時に、クラスだよりやドキュメンテーションで話し合いのことを知っていたけれども、実際に参観で見てみると、一つのことを決めるのにこんなに丁寧に時間をかけてくださっていたことが分かりました。」というお言葉もいただきました。

こうやって民主的に話し合いをして決めていく経験をした卒園生たちが、学校でもファシリテーターのような役割を務めるなど、活躍していると聞きます。社会に出てからも必要な力が、幼稚園の時代に育っていきます。

だから今は、「きっと自分の思いが言えるようになっていく。」「きっと友達の気持ちを聞けるようになる。」そして「友達の力を借り、友達に力を貸しながら育っていく。」と信じて見守ってくださいね。